

# 『ミャンマーの小僧さんたち』

## メッタチッタ比丘

注記:これは2019年6月29日、ミャンマー料理店ゴールデンバガンにて行われた第八回ゴールデンバガン・ランチセミナーにて筆者が同名の主題で講演した際、参考資料として配布したものに若干の修正と新たに写真を加えたものである。

### 1. はじめにミャンマーの仏教について

ミャンマーの仏教は上座(部)仏教、南方または南伝仏教、テーラワーダ仏教と呼ばれます。お釈尊さまが今から約2562年前にお亡くなり(入滅)になられてから100年たった後、お釈迦さまの弟子たちが仲間割れを起こして2つのグループに別れてしまいました。そのうちの一つを上座部と言い、現在のミャンマー、タイ、スリランカ、ラオス、カンボジアにある仏教はこの系統に属します。もう一方のグループを大衆部と呼び、チベット、中国、朝鮮半島、日本などに伝わった大乘仏教はこの系統に属します。

### 2. ミャンマーの仏教史

現在ミャンマーと呼ばれる土地では、ラカイン族、ピュー族、モン族といった民族がインドからの交易商らを通じて上座部仏教を早くから取り入れていた。11世紀に入ってビルマ族最初の王朝であるパガン朝が成立し、上座部仏教を受容したことから、今日までミャンマーで上座部仏教が栄えている。



### 3. 小僧とは

ミャンマーでは小僧のことをコーインと呼ぶ。上座部仏教における小僧とは、19歳以下の剃髪し袈裟を着た出家者のことを指す。20歳以上のものは比丘、ミャンマー語でヤハン、ポンジーなどと呼ぶ。十代が多いが幼い子で七歳頃から寺に預けられる小僧もいる。



### 4. 小僧の人数

2019年時点でミャンマーの小僧、僧侶を合わせた総出家者数は40万人弱であり、その半数強が小僧と考えられるのでおよそ20万人前後と考えられる。





## 5. 出家理由

子沢山や貧しい家庭の出身で、教育を受けさせられない、食べさせられないなどの理由で親から寺に預けられる場合。兄やおじなどの親戚に僧侶がいて、そうした者から勧められて出家する場合。自ら希望して出家する場合。



## 6. 小僧の教育

幼くして寺に預けられた者には、まず字の読み書きから教える。簡単なお経の暗誦などからはじめ、段階別に設けられた教理試験を受けるための教育を受ける。学問寺に住み込みながら、指導僧から教理を学ぶ。大きな学問寺になると、数千人規模、数百人規模のものもある。高度な段階の受験を意識して学習するものはスパルタ式の寺で朝から夜まで勉強する。学問寺で勉強している小僧のうち、成人して比丘になりそのまま寺に長く残るものはだいたい3分の1ほど。その他の者は試験に落ちて失望したり、出家生活に飽きて還俗してしまう。





## 7. 小僧の出家式

ミャンマー人仏教徒の男性は一生に一度は出家する人がほとんど。出家する期間は人それぞれ。多くが十代で小僧出家する。ミャンマー中部をはじめ男の子を出家させるために親は借金までして盛大な出家式を合同で行う。王子であったお釈迦様が出家される時に馬に乗って王宮から出た故事にちなんで、ミャンマーでは男の子を王子のように着飾らせて馬に乗せて練り歩くことが多い。



## 8. 小尼さんもいるミャンマー

ミャンマーでは男の子の小僧だけでなく、女の子の小尼も少なからずいる。尼寺もあり、尼さんたちが集団で生活している。尼寺は大きなものでも200人ほどで、ミャンマー全体でおおよそ五万人ほどと思われる。尼さんたちは午後には托鉢に行くことを許されていて、お米や小銭などを貰って生計の足しにしている。





## 9. 在家少年少女の仏教学校

ミャンマーでは仏教は事実上の国教といってもいい扱いを受けているが、正式な国教と位置づけられているタイと異なり、ミャンマーの学校では仏教が正式な科目として教えられていない。そのため3月の夏休みころに少年少女を対象とした夏休み仏教教室を設けている寺もある。



## 10. 老人も忘れていないミャンマーの寺

寺によっては敬老会を催す寺もある。老親を寺に招いて子息が贈り物をし、食事をふるまう。

